

全国協議会 ニュース

2024年3月1日発行 第379号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田1-3-4KT ビル3階
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365
発行責任者：梅田正造 題字：仲田順和
https://www.marow.or.jp E-Mail:office@marow.or.jp

あいちの会「第75回保健文化賞」受賞 ～民間の骨髄バンク設立時から患者支援に尽力～

あいち骨髄バンクを支援する会が「第75回保健文化賞」を受賞されました。この賞は、保健衛生の向上に取り組む団体・個人に対して贈られます。第一生命保険株式会社が主催し、厚生労働省、朝日新聞厚生文化事業団、NHK厚生文化事業団の後援により昭和25年に創設されて以来毎年実施されています。



この度、「第75回保健文化賞」を受賞しました。当会は愛知県の推薦をいただき応募しました。長年にわたり、愛知県や市町村が実施する骨髄バンクドナー登録会における来場者へのドナー登録の呼びかけや普及啓発活動、血液疾患患者やその家族の支援活動、行政職員を対象とした研修への講師派遣等を精力的に行い、骨髄バンク事業に貢献している点を評価いただきました。12月20日(水)の贈呈式は明治記念館で肅々と行われました。受賞された10団体、個人3名の方々と喜びを共有してまいりました。コロナ感染症の影響でここ数年は贈呈式後の祝賀会は開催されていませんでしたが、今年は祝賀会も開催されました。翌21日(木)は天皇・皇后両陛下にご拝謁の機会をいただきました。両陛下からは、受賞者お一人お一人に丁寧にお声をかけていただきました。

あいち骨髄バンクを支援する会(以下、あいちの会)の活動が始まって35年が経過しました。1988年、あいちの会の前身「名古屋骨髄献血希望者を募る会」が発足、全国で初めて骨髄ドナーの募集を開始するとともに骨髄バンク運動を広めるため全国活動を展開しました。1989年、民間の骨髄バ

ンク「東海骨髄バンク」が発足、その後はその広報渉外部門として啓発活動に従事してきました。1994年、全国展開を見届けた後、「骨髄バンクを支援する愛知の会」と改名、活動の拠点を愛知県内に移し、ドナー登録への普及啓発活動を行ってきました。また患者支援活動も積極的に行い、1997年、患者家族のための宿泊施設「愛知県長期滞在患者を支援する はなのきの会」を設立、ご家族の生活の場の提供とともに患者さんやご家族の心のケアにも取り組んできました。2005年、「NPO法人あいち骨髄バンクを支援する会」に改名、現在に至ります。今回の受賞は改めて35年を振り返り、そして今後の活動を考えるきっかけにもなりました。

これまで、当会を支えて下さった皆さま、行政、血液センターの皆さま、ボランティアの皆さまと共に、患者さんやご家族のご支援ができるようコツコツと活動を続け、努力してきたことが今回の受賞に繋がったと感慨深い思いでいっぱいです。今後も気持ちを引き締めて努めてまいりますので引き続きよろしくお願い申し上げます。

(あいち骨髄バンクを支援する会 理事長 北折健次郎)

自見大臣と懇談



1月31日(水)、自見はなこ大臣(沖縄及び北方対策・消費者及び食品安全・地方創生・アイヌ施策・国際博覧会担当)を全国協議会梅田正造理事長が訪問し懇談しました。自見大臣は小児科医であり、これまで骨髄・さい帯血バンク議員連盟事務局長として、尽力されています。

2024 全国骨髄バンク ボランティアの集い in 東京開催

「もう一人の私～あなたに届けるメッセージ」と題し、骨髄バンクを介して移植を受けた患者さんにまだ見ぬドナーさんへの想いを伝えるメッセージを披露いただきます。予約不要・参加無料です。どなたでもご参加いただけます。

日時：2024年5月25日(土) 13時 開会
場所：角筈(つのはず)区民ホール
(新宿区西新宿 4-33-7)
京王線「初台」徒歩10分

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

骨髄バンク NOW

(MONTHLY JMDF(2月15日発行)より抜粋)

■日本骨髄バンクの現状(2024年1月末現在)

	12月	1月	現在数	累計数
ドナー登録者数	3,121	3,072	553,446	953,888
患者登録者数	200	183	1,658	68,025
採取数	骨髄	55	55	26,228
	末梢血幹細胞	24	25	2,062
	合計	79	80	28,290

2023年4月から統計基準が移植件数から採取件数に変更

■1月の区別ドナー登録者数

献血ルーム/1,013人、献血併行型集団登録会/2,006人、集団登録会/1人、その他/52人

■1月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 4,360人/20代 92,483人/30代 136,095人
40代 214,511人/50代 105,997人

■1月の20歳未満の登録者 272人

(注)数値は速報値のため訂正する場合があります。

「巨人軍宮崎キャンプでのオンライン登録会」関係者からの報告

日本骨髄バンク

2月4日(日)、宮崎市内で読売巨人軍のご協力を得て行った、スワブ※によるドナー登録時HLA(白血球の型)検査を用いたオンラインドナー登録会について皆様にご報告申し上げます。

現在、骨髄バンクに登録している移植希望の患者さんは、その約半数しか移植が受けられていない状況です。さらに今後5年以内には、年齢を理由に10万人以上が登録取消しとなることでドナープールの縮小が懸念されています。この解消のためには30代以下の新規ドナー登録者が年間3万人必要との試算があり、当法人では重点的に若年層へのアプローチを推進してきました。



海外の主要バンクでは、既に「スワブによるオンラインドナー登録」が導入されており、若年ドナー獲得に効果を上げています。若年層の新規ドナーを確保するためには、採血が不要で若者に親和性の高い同方式を導入することが有効と考えられることから、当法人では、2026年度の本格導入に向け、今年9月までにまずは200検体のスワブ検査によるオンライン登録で手順等の確認などを行うため、トライアルとしての運用を開始しました。

登録会当日は、巨人軍の担当者が「このような状況は初めて」と驚かれるような断続的な雨天となり、スタジアムに設置したブース周辺の人出はまばらな状況でしたが、みやざき骨髄バ



ンク推進連絡協議会の皆様や、県の職員の方々のご協力を得て、語り部インタビューや登録PRを行い、オンライン登録用特設サイト案内のチラシを配布した結果、10名の方がブースに来場されご登録(スワブ申し込み)くださいました。一方、チラシは若年層へのアプローチを意識しつつ100枚弱を配布したものの、残念ながら後日登録にはつながりませんでした。

当法人では、今トライアル期間を通じ、引き続き駅前や大学献血会場、イベント会場等様々な場面でのチラシ配布を行いその効果を確認します。当日ご尽力くださいました関係の皆様により御礼を申し上げますとともに、引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(日本骨髄バンク 広報渉外部長
戸田泉)

※「スワブ」とは、先端がざらざらしている綿棒状の用具で、口の中(頬の内側や舌の裏側)をこすすることで、口腔粘膜の組織をHLA検査用の検体として痛みなく採取できます。

宮崎県

当日は生憎の雨となり、サンマリンスタージアムでの練習は中止となりました。このため、多くの来場者は少し離れた室内練習場を訪れていたこともあり、参加スタッフの中で4名のチームを組み、室内練習場近辺での広報を実施しました。

チラシを配布して感じたことは、「採血会場・時間が不要」という利点

です。その場で登録の可否を決めなくても、自宅でQRコードを読み込み、動画等により骨髄バンク登録について知り、検体を採取することができるため、スマートフォンへの親和性が高い若年層を中心に、骨髄バンク登録の増加が期待できる取組だと感じました。

令和5年12月末時点で、宮崎県内には5,000人を超える骨髄バンク登録者がおられますが、特に若年層の登録者をどのように増やすかが課題となっ

ています。

県では、大学等へのドナー公欠制度導入に向けた働きかけのほか、ドナー助成制度を導入している市町村への支援、大型商業施設における啓発イベントの開催など、若年層も含めた骨髄バンク登録の推進に取り組んでいます。

今後も、様々な機会を活用して骨髄バンク登録の推進に取り組んでまいります。

(宮崎県健康増進課 原田和弥)

地元ボランティア

本年も読売巨人軍2024春季宮崎キャンプ会場にてボランティア活動を行いました。

毎春恒例のようにしているこの行事のスタートは2006年2月でした。県の健康増進課からの提案で、宮崎市観光協会と巨人軍に協力を得て、食事や土産品を展開するGパークにブースを設け、県主催による啓発活動と集団登録会が実現したのです。

近年は日本骨髄バンクが企画し、職

員も参加され開催されています。

今回は2年後に主流になるであろうスワブ式登録のオンライン受け付けのトライアルを全国初という形で展開。採血の必要もないので準備も簡単で、今で云う[ドナー登録説明会]の様です。

ブースにご案内すると日本骨髄バンク職員が骨髄バンクについての説明とスワブ式のドナー登録の方法について説明。現行の採血での方法さえも知らない方々ばかりでしたが、スワブ式の登録方法は、すんなりと受け入れられていたように感じました。

しかしながら登録の道順は簡潔となったものの適合通知からのプロセスは変わりません。ドナーになるとはどんなことか?サクサクと進むより、じっくりと理解してもらうことは、これからも変わりなく重要だと考えます。

これまでのように学校や職場などでの講演会や啓発活動を展開しながら、スワブによるオンラインドナー登録会を開催することはより画期的で若者の登録増加に繋がると思いました。

(みやざき骨髄バンク推進連絡協議会
中村福代)

高校生が説明員として登録会開催



岡山県浅口市にある「おかやま山陽高校」では毎年、3年生を対象に新年早々に骨髄バンクの講演会と献血の説明会を開催していただいています。

講演は14年前からになります。私自身が毎年、参加させてもらっています。骨髄バンクの講演会を3年続けた後にこの学校の卒業献血が始まって、血液センターの担当者が参加してくれるようになりました。毎年、講演会の2週間後くらいに卒業献血として献血併行型骨髄バンクドナー登録会を開催していただくようになりました。

講演会の内容としては、私の活動を通して出会った高校生の時に白血病を発症して、ドナーさんも見つからないまま20歳で亡くなった青年のことで、2度骨髄提供した次男のことや骨髄バンクの必要性、HLAのことなどをお話ししています。

生きたくても生きられなかった青年の紹介が共感を呼ぶのか、感想文にはよく彼のことを書いてくれています。

講演後に開催する献血併行までに、学校は献血とドナー登録希望の生徒の保護者から承諾書を貰っていて、当日は各クラスごとに混雑しないように配慮していただいて会場に来て貰っています。

クラス毎の名簿には年齢を確認できるように生年月日も書いてあり献血、ドナー登録に印を付けて、ドナー登録の希望洩れがないように配慮していただいています。

岡山県では何処の会場でもドナー登録希望者の採血洩れがないように献血とドナー登録の両方と登録だけをファイルで色分けをして、申込用紙を挟んでいるのでスタッフの情報共有が献血の流れの中でスムーズに行われていると思います。

献血併行が始まってから12年目の今年、説明員も高校生だけで開催できるようになりました。

一昨年、おかやま山陽高校は「高校生ボランティアアワード・風立つライオン」というさだまささんのイベントで中国大会を勝ち抜いて、全国大会では特別賞を受賞しました。テーマは「骨髄バンクの若年層のドナー登録者数をどうしたら増やせるか」でした。

昨年も同じテーマで一步前進させて、自分たちが説明員の活動をしようとして説明員養成研修を受け、実地研修後

説明員デビューして、高校生ボランティアアワードの全国大会で説明員として骨髄バンクのドナー登録から提供までの流れを説明したそうです。昨年も特別賞だったのですが、さだまささんから声をかけて貰ったそうです。

今年のドナー登録会のコーナーでは高校生説明員が4~6名ずつ並んで、自校の高校生に説明している姿は堂々と自信に溢れていて素晴らしかったです。

先生にお聞きすると、放課後上級生も下級生も一緒に繰り返しロールプレイされていたとの事です。

献血希望者は110数名、ドナー登録希望者は43名でしたがインフルエンザなどで休んだ子がいたり、年齢が達していない子達にも説明をして、後日献血ルームに行っていただくことにして、実際の登録は28名、事前説明が5名となりました。

3年生の説明員は卒業後大学生活が落ち着いたなら、その地域のボランティアさん達と一緒に活動したい、また、在校生の皆さんは新1年生と活動を続けたいと言ってくれています。

来年度もおかやま山陽高校へ説明員養成研修に行かせていただくことも楽しみにしていますが、全国にこの高校の取り組みが広がるよう願っています。

(日本骨髄バンク 地区普及広報委員 広畑紀子)

荒井善正さん HEROs AWARD2023 受賞

全国協議会の理事を以前務められた荒井さんが素晴らしい賞を受賞されました。感想をご寄稿くださいました。



今回錚々たる面々が受賞して来たHEROs AWARDを受賞することが出来ました。SNOWBANKの立ち上げから気がつけば14年。この活動が社

会に認められたようでとても嬉しかったです。音楽、アート、様々なスポーツと連携する事でたくさんの新規の献血・骨髄バンクドナー登録者を獲得してきたことが評価されました。その活動の中でたくさんの仲間が出来、その協力でこの活動を続けることが出来ました。今回のHEROs AWARDはSNOWBANKの活動に関わるすべての仲間のおかげで受賞出来たと思います。今後は今回の受賞で繋がった様々なアスリートやアーティストと連携しながらより幅広い層に献血・骨髄バン

クドナー登録を知ってもらえる活動にしていきたいと思っています。学校教育にも踏み込んで道徳の時間の授業で使う副教材を制作するなど、より若年層にもアプローチする活動も増やしていきたいと思っています。これからも「治療を必要とするすべての患者が治療のスタートラインに立てる社会を創る」目標はブレずに「SNOWBANKの活動が必要ない社会」を目指し活動を続けていきたいと思っています。今後もこの活動を続けるためにもご支援よろしくお願いたします。

(一般社団法人 SNOWBANK 代表理事 荒井善正)



〈雪主寄付〉

日本がん・生殖医療学会に出展

2月10日(土)・11日(日)に水戸市民会館(茨城県水戸市)で開催された第14回日本がん・生殖医療学会学術集会にブース出展しました。

がん患者さんの生殖医療に最前線を取り組む医療関係者の皆様に、全国協議会が運営する妊孕性(妊娠するため

の力)温存支援の基金「こうのとりのマリーン基金」「志村大輔基金」を知ってもらい、活用していただくためです。

ブースには移植コーディネーターの方も多くお立ち寄りいただき、基金の説明に耳を傾けてくださいました。資料をお渡しすると「いい制度ですね」と言っていますが、まだまだ認知されていないことを実感しました。「白血病と言われたら」にも関心を寄

せてくださいました。

こうのとりのマリーン基金は助成金の上限を20万円に拡大、保存していた卵子を使い妊娠するための費用の助成(当基金の支援で保存した方に限る)も開始しました。

両基金とも自治体の支援で賄えなかった費用を支援していますので必要な患者さんにお知らせいただきますようお願いいたします。

全国協議会理事研修会開催

2023年7月から、全国協議会第12期の理事会体制が始まりました。理事長には梅田正造が就任し、5名の理事が新任として理事に選ばれ、理事14名の新体制となりました。

初めての理事会で、各理事の担当業務が割り振られましたが、前任からの引き継ぎがされていない部分も多く、担当業務にどのような実務や具体的な行動が伴うのか、理解できないままに

なっていました。そこで、新型コロナウイルスの感染者数も減少し医療対応も5類となったこの時期に、理事が全員顔を合わせてそれぞれの業務のレクチャーを受け、みんなで共有化するために、集合形式の理事研修会を1月13日(土)に開催しました。

最初に、全国協議会の組織図を改めて整理しました。理事の担当業務は、「つなぐつなげる」「伝える」「患者支援」の3つのネットワークに区分して、ネットワーク内の業務を理事がそれぞ

れ担当することで任務分担を明確にしました。

その後、それぞれの業務内容を先輩理事や事務局からレクチャーを受け、今後の発展について、また加盟団体から支持を受けるための方策をみんなで考えました。

2名が参加できなかったのですが、新任の理事を中心に、全国協議会の業務内容を再認識して共有する大変良い機会となりました。

(副理事長 若木換)

「ありがとう桜」植樹から15年



(2月19日撮影)

2008年12月に日本骨髄バンクを介した移植が10,000例、さい帯血移植が5,000例に到達しました。そのことを記念して提供いただいたドナーさんに感謝し、また、移植を受けられなかった患者さんと闘病中の患者さんに思いを寄せて、2009年初頭に全国各地の医療施設、自治体等にご協力いただき桜を植樹しました。

それから15年、大切に育てていただき「ありがとう桜」として今年も綺麗な花を咲かせてくれました。全国の桜をリレーでお届けします。今号は沖縄県庁の桜です。

ゴールドジムスクール発表会贈呈式

2月10日(土)に関東で、2月11日(日)には関西でスクール発表会が開催され贈呈式に副理事長が登壇しました。関西での様子をお伝えします。

2月11日(日)、高槻城公園にある新しい施設、トリシマホール(大阪府高槻市)で開催された関西地区ゴールドジム発表会に伺いました。

2年前は皆さんがマスクをしてパ

フォーマンスされていましたが、今年は晴れやかな笑顔で練習の成果を披露してくださいました。多くのご家族、観客の方の応援でいきいきとステージで踊る子供たちに、私もパワーをいただきました。ゴールドジムの皆さまからの骨髄バンクへのあたたかいご支援とご寄付を頂戴し、お礼をお伝えしました。血液難病と闘う患者さんのために大切にに使わせていただきます。ありがとうございました。

(副理事長 浅野祐子)

心からのご寄付に感謝申し上げます ●1月21日~2月20日(敬称略)

当協議会への寄付金は税制上の優遇措置を受けられます。

●一般	筒井 肇	現金	1,000円	札幌北楡病院	現金	7,474円
千葉ゆうきのライオンズクラブ	●志村大輔支援基金			株式会社タフゴング		
現金 100,000円	石橋 もと子	現金	10,000円		現金	9,643円
骨髄バンクを支援する東京の会	児玉 知之	現金	10,000円	美容室 ケイ	現金	2,982円
現金 12,000円	高橋 正人	現金	5,000円	守口映画上映会募金箱		
渡辺 陽子	●募金箱				現金	3,205円
現金 5,000円	株式会社 クスリのアオキ			日本がん・生殖医療学会募金箱	現金	2,000円
匿名 現金 1,000円	株式会社 マルト商事	現金	1,118,056円	●つながる募金		
コザワ ヨシノリ	株式会社 マルト商事	現金	88,204円		現金	14,300円
現金 100円	株式会社 フクヤ	現金	11,591円	●キモチと。		
●佐藤さち子造血細胞移植患者支援基金	株式会社 ナルックス	現金	27,616円		現金	3,701円
池田 三津子						
現金 18,000円						
本田 真奈美						
現金 5,000円						
塩谷 泰人						
現金 1,000円						

活動資金の支援をお願いします

銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 郵便振替口座 00150-4-15754
普通 5666655

口座名: 特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会
郵便振替口座の振込用紙を郵送いたします。当協議会までご請求ください。